

2) 地域間活性化事業の実施

① 「土曜朝市」の開催

成器地区で生産される野菜類を主品目とし、遷喬地区元魚町一丁目の空き店舗を借りて「土曜朝市」を8月から12月の間、計10回行った。遷喬地区では朝市の開催は、珍しい事ではない。しかし、成器地区はまちなかでの販売は初めての試みとなり、商品の確保と売り上げの動向に不安があったと思われる。私どもNPOとしては、なるべく商品の売れ残りを無くするために、開催町内の方々は勿論のこと遷喬地区の方々に声を掛け、お買い上げ協力をお願いした。

第1回土曜朝市

開催日時： 平成22年8月28日、8:00～10:00

場 所： 鳥取市元魚町一丁目鳥飼尚美堂

第1回土曜朝市



第2回土曜朝市

開催日時： 平成22年9月11日、8:00～10:00

場 所： 鳥取市元魚町一丁目鳥飼尚美堂

第2回土曜朝市



第3回土曜朝市

開催日時： 平成22年9月25日、8:00～10:00

場 所： 鳥取市元魚町一丁目鳥飼尚美堂

第3回土曜朝市



第4回土曜朝市

開催日時： 平成22年10月9日、8:00～10:00

場 所： 鳥取市元魚町一丁目鳥飼尚美堂

第4回土曜朝市



第5・6回土曜朝市

開催日時： 平成22年10月23・24日、8:00～10:00

場 所： 鳥取市元魚町一丁目鳥飼尚美堂

第5回土曜朝市



第6回土曜朝市



第7回土曜朝市

開催日時： 平成22年11月13日、8:00～10:00
場 所： 鳥取市元魚町一丁目鳥飼尚美堂

第7回土曜朝市



第8回土曜朝市

開催日時： 平成22年11月27日、8:00～10:00
場 所： 鳥取市元魚町一丁目鳥飼尚美堂

第8回土曜朝市



第9回土曜朝市

開催日時： 平成22年12月11日、8:00～10:00
場 所： 鳥取市元魚町一丁目鳥飼尚美堂

第9回土曜朝市



第10回土曜朝市

開催日時： 平成22年12月25日、8:00～10:00
場 所： 鳥取市元魚町一丁目鳥飼尚美堂

第10回土曜朝市



② 両地域の伝統的技術や生活文化「交流展」開催

両地域で行う公民館まつりの会場で、「生活環境と生活意識アンケート調査」の結果、第1回ワークショップのまとめ、両地区の「まちづくり協議会」が取り組む事業を写真パネルで展示し発表を行った。

○遷喬地区公民館にて平成22年10月30～31日。

※いきいき成器保育園運営と園児の四季折々の様子を紹介展示した。



○旧成器小学校体育館にて 平成22年11月7日。

※遷喬地区まちづくり協議会3部会が取組む年度事業を紹介展示した。



餅つきに参加



11月20日実施予定の第2回老世代交流会打ち合わせ



○両地域のまちづくり協議会とNPOの役員による「まちなか巡り」視察研修交流会の実施

平成22年11月13日に、両地域のまちづくり協議会役員（遷喬地区4名、成器地区5名）とラーバンマネジメント5名の計14名で「まちなか店巡り」視察研修交流を実施した。

「まちなか」遷喬地区のまちづくり協議会「にぎわいのあるまちづくり部」が平成22年度に取り組んでいる事業「遷喬地区再発見」でマップを作成し、その中に伝統を維持する地区内の匠の店18店舗が紹介されている。

マップに掲載の川端一丁目と二丁目の7店舗（煎餅・漆工芸・畳製造・珈琲焙煎・たいやき・紋入れ・写真館）を視察した。どの店からも発見と感動を覚え、特に、農作業に畳の表替えの残りが欲しい等の要望も出、研修により地域間の繋がりへと進展している。

煎餅屋さん



畳屋さん



紋入れ屋さん



写真館



平成22年11月20日開催第2回老世代交流会の資料として使用した。

[illegible]

まちなかと水源地地境人世代交流事業

瀬音地区・河町町成器地区65歳以上の方対象
「生活環境と生活意識」アンケート調査集計報告

瀬音地区・河町町成器地区の65歳以上の方を対象に「生活環境と生活意識アンケート」調査の実施に当たりましては、皆様にご協力をお願いいたします。誠にありがとうございました。集計結果がまとまりましたのでご報告致します。

今後の活動の指針とさせて頂きながら、事業を進めてまいります。引き続きご支援のほどよろしくお願い致します。

調査期間 平成22年7月～8月

瀬音地区調査人数 80名

成器地区調査人数 79名

合 計 調査人数 159名

平成22年10月吉日

瀬音地区まちづくり協議会

まちづくり・いきいき成器の会

NPO法人ターバンマネジメント

(イ) あなたの年齢は、どれにあたりますか。

	瀬音地区	成器地区	合 計
65歳～70歳	31名	15名	46名
71歳～75歳	21名	21名	42名
76歳～80歳	21名	23名	44名
81歳以上	17名	21名	38名

(ロ) あなたは男性ですか、女性ですか。

	瀬音地区	成器地区	合 計
男	47名	32名	79名
女	33名	47名	80名

(ハ) 現在、職業に就いておられますか。

	瀬音地区	成器地区	合 計
職業に就いている	37名	15名	52名
職業に就いていない	43名	64名	107名
職業に就いている人は			
会社等に勤務	4名	7名	11名
自営業	24名	3名	27名
その他	9名	6名	15名

(ニ) あなたの家族構成についてお聞きます。

	瀬音地区	成器地区	合 計
一人暮らし	2名	12名	14名
夫婦のみ	28名	21名	49名
子供と一緒に	19名	20名	39名
孫も一緒に	17名	19名	36名
その他	7名	7名	14名

④

vol.11

ラーバンだより

平成 22 年度国土交通省土・水資源局「水源地域活性化調査委託業務」
 「まちなか和水源地域」の老人世代交流事業報告 特集号



● まちなか・俣川水源地域
老人世代交流事業 報告会

日時：2月18日(日)
午前十時30分～午後3時30分

場所：源清地区公民館

● 開会式	10:30～11:00
● 報告会	11:00～12:30
● パネルディスカッション	13:30～15:00
● テーマ 暮らしと自然のつながり	15:00～16:30
● 閉会式	16:30～17:00

〔注 意〕 NPO法人 ラーバナマネジメント
 会場無料で入場無料です
 会場づくり・いりかえ費の会

催展・発行

NPO法人 ラーバナマネジメント
 〒900-0281 長野市木町 1丁目103番地
 TEL 0967-37-0267 FAX 0967-37-0258
 HP <http://www.rurban-a.com>
 E-mail: npo@rurban-a.com

この印刷物は国土交通省土・水資源局 平成22年度「水源地域活性化調査委託業務」の支援を受けて作成されたものです。

– 27 –

3) 水源地域の活性化を考える「地域交流大学」開講

第1回老世代交流会

開催日時:平成22年8月21日、10:30～11:30

テーマ:両地域のおすすめ「季節の産物」「季節の料理・食材」

「やってみたい・身につけたい」「伝えたい・教えてあげる」

講師:早稲田大学都市・地域研究所 客員研究員 後藤秀昭氏

場所:鳥取市国府町成器地区公民館

参加者数:40名(まちなか32名、水源地区8名)

遷喬地区住民32名が遷喬地区公民館に集合、そこからバスで成器地区公民館を訪問し、第1回老世代交流会を実施した。

お互い初対面なので対面式を行い、挨拶を交わした。

第1回老世代交流会初対面の挨拶



ワークショップ実施状況



次に、早稲田大学都市・地域研究所客員研究員後藤秀昭氏をコーディネーターとしてワークショップを行った。テーマは両地域のおすすめ「季節の産物」、「季節の料理・食材」、「やってみたい・身につけたい」、「伝えたい・教えてあげる」等お互いの「まちじまん」や「むらじまん」を出し合って、それを1年の中でどの季節になるかを書き出す作業を行った。ワークショップの集計結果は次の交流会で発表することとした。

ワークショップ実施状況



ワークショップ実施状況



交流会の後、遷喬地区の住民は袋川最上流の雨滝へ移動、ここで昼食を取った。
しばらく休憩の後帰路へ。

水源地域最上流雨滝散策



水源地域最上流雨滝散策



第2回老世代交流会

開催日時:平成22年11月20日、10:25～14:40

講演:「水源地区とまちなか地区」老世代交流の意義

講師:東京経済大学現代法学部教授 森反章夫氏

場所:鳥取市国府町神護「かやぶき交流館」

地区研修場所 〃 中河原「いきいき成器保育園」

〃 殿 「殿ダム堰堤 工事現場」

参加者数:45名(まちなか30名、水源地区15名)

遷喬地区住民30名が遷喬地区公民館に集合、バスで国府町神護かやぶき交流館を訪問し、第2回老世代交流会を実施した。

国府町神護かやぶき交流館



かやぶき交流館にて講演会開催



最初に「「水源地区とまちなか地区」老世代交流の意義について」を演題に東京経済大学現代法学部教授森反章夫氏が講演を行った。

森反教授は、福島・大分・愛媛での農村のまち起こし例、長崎・神戸・東京江戸川での建造物の保存、地域の再生への試みそして、コミュニティの活かし方の例を挙げながら、この事業の進め方も行政への支援要請は勿論だが、地域の意志を固め、まちなか地域と水源地域が物語り性のある、地域に適合するやり方で交流の広まりを考えることが大切と提言された。

神護地区の方から講義内容の「地域起こし・村起こし」にふれながら、顔の見える米づくりに励んでいるが、神護地区を維持する実状の不安もあり、「まちなか」からも支援を期待する報告があった。

かやぶき交流館にて講演会開催



かやぶき交流館にて講演会実施状況



神護かやぶき交流館からバスでいきいき成器保育園へ移動。保育園内の体育館で昼食。焼きそばや焼き肉、おにぎりを食べながら交流会を行った。

いきいき成器保育園にて交流会



いきいき成器保育園にて交流会



昼食後バスで移動し、殿ダム堰堤工事現場を見学した。

殿ダム堰堤工事現場見学



殿ダム堰堤工事現場見学



キムチづくり講習交流会・ワークショップ

開催日時:平成22年12月11日、12:30～14:00

テーマ:キムチづくり講習交流・成器地区の農産物加工を考える

講師:早稲田大学都市・地域研究所 客員研究員 後藤秀昭氏

場所:鳥取市本町遷喬地区公民館

参加者数:40名(まちなか32名、水源地区8名)

老世代の経験と智慧が発揮される交流のあり方を試みた。

「まちなか」遷喬地区のまちづくり協議会の会長である浦木清ご夫妻が長年のキムチづくりの経験があり、キムチの漬け方講習のインストラクターを引き受けて頂いた。

材料は、「水源地域」の白菜を素材にした。

本事業のワークショップのコーディネーターをお願いしている早稲田大学都市・地域研究所、客員研究員の後藤秀昭氏も参加された。

浦木夫妻によるキムチの漬け方講習



キムチ作り作業中



講習会後に「成器地区農産物加工」をテーマにワークショップを開催。

双方からいろいろな農産品加工の提案で盛り上がり、成器地区から「手作りこんにゃく」の試食提供もあったりして、第3回の交流会のテーマが「水源地域の農産品加工の夢」に決まっていた。

キムチ作りの後昼食を兼ねて交流会実施



昼食後のワークショップ



第3回老世代交流会

開催日時:平成23年1月23日、12:10～14:20

テーマ:成器地区農産品加工の夢

講師:早稲田大学都市・地域研究所 客員研究員 後藤秀昭氏

場所:鳥取市国府町成器地区公民館

参加者数:42名(まちなか31名、水源地区11名)

始めにオリジナルキムチ漬け作品コンテストを開催した。両地域で各8名のエントリーがあり16品を当日参加者全員で作品を試食し、一人が好みの3作品を選ぶ人気投票方式で、1位から3位までを決定、賞品には農産品を使用した。

審査委員長に、鳥取情報文化研究所の所長で「B級グルメのイベント」開催促進に大活躍の植田英樹氏をお願いし、食文化のお話を交えての審査に感心させられながら和気藹々のコンテストとなった。

オリジナルキムチを試食



オリジナルキムチコンテスト審査中



次に、早稲田大学都市・地域研究所客員研究員後藤秀昭氏によるワークショップを行った。テーマは「成器地区農産品加工の夢」と題し、地元の食材を使用したもので、どのような加工品ができるか考えようという事であった。

老世代により地域で地元の食材を使用した加工品づくりの試みに挑戦することで、活性化事業を実感出来る展開となり、地域に在る資源と貴重な人材とその技能の発揮する場を創り出すことにより、今後の事業化へ進んで行ける可能性が出て来た。

ワークショップの様子



まちなか・袋川水源地域の老人世代交流事業報告会

開催日時:平成23年2月13日、13:30～15:35

○事業報告:NPO法人ラーバンマネジメント理事長 加嶋 襄

○パネルディスカッション

コーディネーター:早稲田大学都市・地域研究所

客員研究員 後藤 秀昭氏

テーマ:「老世代交流で地域の活性を」

パネラー:遷喬地区まちづくり協議会会長

浦木 清氏

まちづくり・いきいき成器の会会長

山崎 豪太郎氏

まちづくり・いきいき成器の会副会長

土橋 幸榮氏

鳥取情報文化研究所所長

植田 英樹氏

東京経済大学現代法学部教授

森反 章夫氏

NPO法人ラーバンマネジメント理事長

加嶋 襄氏

場 所:鳥取市本町遷喬地区公民館

参加者数:40名(まちなか34名、水源地域6名)

「まちなかと水源地域」の老人世代交流事業のまとめとして、まちなか・袋川水源地域の老人世代交流事業報告会を開催した。最初にNPO法人ラーバンマネジメント理事長加嶋襄が事業報告を行った。

NPO 法人ラーバンマネジメント加嶋理事長の事業報告



結論は、交流事業を続けることであった。

それぞれが伝授する技能を持つと同時に習得したい意欲もあり、テーマの設定とその次第に工夫を加えることにより交流事業を発展的に進めていくことができる。ただ、双方が互いに理解を深めるには少々時間が要る。交流事業を発展的に進めていくには、我慢強く継続的に続けていくことが必要であるとの報告であった。

続いて早稲田大学都市・地域研究所客員研究員後藤秀昭氏をコーディネーターとしてパネルディスカッションを行った。テーマは、「老世代交流で地域の活性を」で、合計4回の交流会を振り返って、その成果と課題について遷喬地区、成器地区からの意見を出し合い、今後の交流会の進め方や、交流を継続していくための方策等についての意見述べた。

報告会を聞く参加者



パネルディスカッションで意見発表



6. 事業のまとめと成果報告

◎事業のまとめ

・土曜朝市

土曜朝市は8月28日から12月25日10回開催した。来場者は平均40名で老人が多かった。、新鮮で低価格の商品に評判も良く継続開催の要望が多い。

・両地域の伝統的技術や生活文化「交流展」と情報発信

「交流展」は地域間交流行事として継続する事が課題であり、情報誌を発行しながら両地区を始め鳥取県東部を中心に今回の事業報告を周知する発信を行った。

・両地域のまちづくり協議会とNPOの役員による「まちなか巡り」

両地域のまちづくり協議会役員（遷喬地区4名、成器地区5名）とラーバンマネジメント5名の計14名で「まちなか店巡り」視察研修交流を実施した。各店舗内で「伝統の技」を見てその説明を聞き、外観で感じていた「まちなか」を、各店の生業に直に接する研修も、交流の基本テーマである。

・老世代交流会

第1回から第3回までの老世代交流会は、いずれも水源地域で開催した。

「まちなか」の参加者は、第2回目で神護地区の集落維持に取り組む姿、自主運営されている成器保育園でその取り組み方、殿ダムを見学し、水源地域の変貌を同じ老世代の方々を身近な関係に感じながらも、これらの現状を見て、水源地域を認識されたと理解している。老世代で行う地域の維持管理と明日へ繋がる交流会の持ち方として、両地域で共同して作業することを大切に考え「オリジナルキムチづくり講習」を行った。

第3回交流会で水源地域の農産物を素材とした加工事業を企画する一つの方向が「自作キムチ漬け」のコンテストへと進展した。両地域で各8名のエントリーがあり16品を当日参加者全員で作品を試食し、一人が好みの3作品を選ぶ人気投票方式で、1位から3位までを決定、賞品には農産物を使用した。

水源地域では、1月11日に講習会参加者よりも多い12名のメンバーにより9種類のオリジナルキムチを共同作業で漬け込み、コンテストに臨む体制づくりと意気込みが見られた。「水源地域」の人達は「まちなか」にある豊富な人材に期待し、いろいろなノウハウを両地域で開発したいとの意欲が感じられた。

◎成果報告

- ・水源地域の活性化に向けた具体的な可能性として、農産加工品を手がける夢が現実になるようとしている。水源地域の素材を活用し、情報を整理し、加工の実践を指導出来るインストラクターが「まちなか」に存在する等の信頼の持てる条件も整い、新しい可能性が交流を通して理解され自信に繋がった。
- ・水源地域の農産加工品として既に、市場に出ている商品もあるが、生産量を控えている傾向もあり、今後の取り組み方は、商品化と販売システムを研究検討する必要がある。そこで「まちなか」の会社、商店と連携する組織作りを進めながら、鳥取県が窓口となる、例えば「雇用創造戦略推進事業」の雇用創造ための先進的・モデル的事業委託等に応募しながら、行政からの支援を仰ぐことも「水源地域の活性化」を進める重要な要素となる。
- ・交流会でワークショップのテーマが「水源地域にある素材（資源）を活かす」進め方に参加者の理解も深まり、今後の交流の中で水源地域が試み、相談を持ちかけることに対し「まちなか」からの強い支援となる交流基盤が出来たことこそ、最大の成果と考える。

- ・水源地域の活性化に向けた具体的な可能性として、農産加工品を手がける夢が現実になるうとしている。水源地域の素材を活用し、情報を整理し、加工の実践を指導出来るインストラクターが「まちなか」に存在する等の信頼の持てる条件も整い、新しい可能性が交流を通して理解され自信に繋がった。
- ・水源地域の農産加工品として既に、市場に出ている商品もあるが、生産量を控えている傾向もあり、今後の取り組み方は、商品化と販売システムを研究検討する必要がある。そこで「まちなか」の会社、商店と連携する組織作りを進めながら、鳥取県が窓口となる、例えば「雇用創造戦略推進事業」の雇用創造ための先進的・モデル的事業委託等に応募しながら、行政からの支援を仰ぐことも「水源地域の活性化」を進める重要な要素となる。
- ・交流会でワークショップのテーマが「水源地域にある素材（資源）を活かす」進め方に参加者の理解も深まり、今後の交流の中で水源地域が試み、相談を持ちかけることに対し「まちなか」からの強い支援となる交流基盤が出来たことこそ、最大の成果と考える。

7. 今後の課題

平成21年度に「新たな公」によるコミュニティ創生事業「まちなか」と「中山間地域」の老人世代交流事業では、遷喬地区の老人と上地地区（成器地区の中の1地区）の老人との交流を通じて両者が抱える現状の課題を掘り起こし、老人世代にとっての生き甲斐について考え、毎日の営みの中に生き甲斐を見つけることができないかということテーマにしてワークショップや土曜朝市を実施した。

平成22年度においては、21年度に実施した交流事業を発展的に捉え、遷喬地区と成器地区（上上地地区、上地地区、上荒船地区、神護地区、山崎地区、中河原地区、松尾地区、吉野地区、新井地区）全体の交流事業として実施した。成器地区においては新たな地区が加わったことから、土曜朝市の野菜の仕入れ先を最初からやり直さなければいけない状況もあったが、遷喬地区の購買客は昨年の事を熟知しており、開店前から待っていて開店と同時に即完売となるようなことが見受けられた。

しかしながら、2時間の販売時間では売り上げ高も限度があり、これを事業化していくためには、販売時間を延長していくとか、商品の品目を増やして集客力を強くするとか何某かの工夫が必要であり、これが土曜朝市での今後の課題であると考えます。

また、交流会においても新しく加わった地区がほとんどなので、初回は対面式から始めた。

ただ、ワークショップについては、21年度よりもっと具体的に事業化できるようなことを進めていく内容とした。この点については今年度の目標である事業化できる産物の発掘への第1歩であると評価できる。

交流会を持続性のあるものとするには、専門家の助言や金銭面での援助がもうしばらく必要であると感じており、この交流事業を我がNPO法人ラーバンマネジメントが支えていくために資金をどう捻出していくのか、また遷喬地区、成器地区がそれぞれ自立しながら双方が連携して交流を深め、行政との関わりをどのように位置づけていくのか等数多くの処理すべきことが山積しているが、これらの事を一つずつ処理していくことが我々に課された今後の課題である。